

# 身体障害者更生施設に入所したいが

**問** 私は幼時小児マヒにかかり、現在右上肢がマヒしている十八才の女ですが、何か自分出来る技術を身につけたいと考えています。県にそのような施設がありましたら、その入所手続等を教えていただけませんか。

**答** 本県には、あなたのような方々のために、熊本県身体障害者更生指導所が設置されています。その入所資格は身体障害者手帳の交

付を受けている方のうち、介護者を必要としない肢体不自由者を収容し、各人の性質、障害の程度より判定して、その残存能力を最大限に活用して、社会生活に適應し、十分に社会活動ができるよう機能回復訓練、職業訓練、生活訓練を行います。

入所募集は毎年一月始めから各福祉事務所及び各町村役場で行い、二月末日をもちつ締め切り、三月中旬に入所選考を行い、四月上旬に入所開始致します。職能訓練の内容は洋期、洋服、刻印、

## 募集開始は一月から

所や各関係機関と連絡をとり、出来る限りのご援助を致しております。

(社会課)



★立ち上る人びと★

## 菊に見出した明日への道

井崎真一さん(八代郡鏡町)

井崎さんは引揚者である。戦後、菓子製造をしていたが、事業の失敗と、結核発病とが重なり、生活は最悪となった。三十五年から医療扶助、生活扶助を受けて療養生活に入った。しかし、この療養生活の中で得た菊の栽培知識が、井崎さんの自活の道を開くことになったのだから、むしろ貴重な療養所の二年間だったわけだ。入院に際して、民生委員、鏡町役場、ケースワーカーを、連絡が行きとどき、申請後十四日目入院という異例のスピードでことが運ばれたのが、身にしみて嬉しかった。

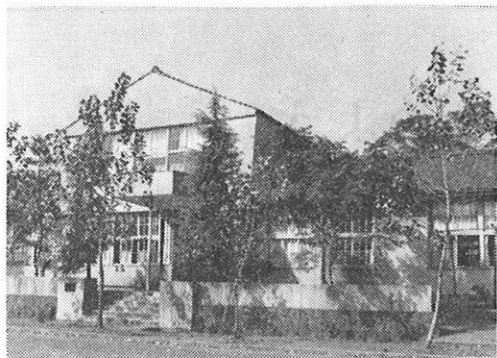
昨年、生業扶助三万円を得て、三反四畝の畑に、百種を越す菊の苗が植えつけられた。来春から本格的に軌道に乗る見込みがつき、子供も中学を出たらあとを継ぐといううれしい申し出で。今年の五月から保護の手をはなれた。

将来、もっと拡張して、ゆくゆくは、鏡町の遊園地になるよう頑張ると、希望にふくらんだ夢を語る井崎さんであった。

私たちの待望久しかった一九六四年東京オリンピックも、去る十月二十四日、日本情緒ゆたかに華やかなファイナレで大会の幕を閉じ、一九六八年のオリンピックに大きな期待をかけて、次の開催国メキシコにリレーされました。

さて、引きつづく東京パラリンピックは、第一部(国際身体障害者スポーツ大会)が十一月八日から十二日までの五日間、第二部(国内身体障害者スポーツ大会)が十三、十四の二日間それぞれ東京で開催されました。

ところで、パラリンピックとはどのようなスポーツ大会なのか、あまりご存知でない県民の方々のために、ここで改めてご紹介いたします。



### 施設紹介

熊本県身体障害者更生相談所  
熊本県身体障害者更生指導所

すべての身体障害者は、自分から進んでその障害にうちかち、一日も早く一般社会人に伍して生活ができるように努めようという趣旨のもとに熊本県身体障害者更生相談所と指導所は設けられた。主な内容としては、まず更生相談では、医学の立場からと職業能力の点から、また人の性質等の面から診断し、最も良い方法を指導している。

更生指導では更生医療、補装具の供給や機能回復訓練、職業補導訓練を指導。なお入所については書類選考の後身体検査、人物検査、知能職能の検査が行われ入所が決定される。

所在地 熊本市出水町今六〇五

TEL ④〇八五七

## パラリンピックとは

先づことの起りと云いますか、その歴史から申し上げますと、身体障害者を心身ともにまた社会的や職業的にも回復させて、その再起に役立ててもらおうと、一九四八年イギリスの国立脊すい損傷センター所長のグッドマン博士によって提

ック大会を機会に今後四年ごとのオリンピック開催地でこの大会開こうということに決ったのです。

では、「パラリンピック」とはどのような内容のスポーツ大会なのか、先づその名称のことですが、これはPARALYMPIC(パラリンピック)と呼ばれるようになったのです。もうお解りのように、パラリンピックは下半身マヒ者で日常車椅子を使用している者だけが行なう国際スポーツ競技で、その種目はバスケットボールや卓球、水泳など十四種目となっており、これを第一部としたのは、今回の東京パラリンピックに限って第一部に出られない(車椅子を使わない下半身マヒ者以外の)身体障害者(例えば、肢体不自由者、聴覚、視覚障害者)の方々のために特別に開催された国内競技大会を第二部としたからです。

この第二部の大会には本県から寺本伝さんほか十名の選手が出場され、金メダル六、銀メダル四、銅メダル七合わせて十七箇のメダルを獲得し、まことに驚異的な成績をおさめて、みごと郷土の声援に応えたのです。

このことは、県下の身体障害者のスポーツへの関心が高まったばかりでなく、社会復帰の実現に大きな勇気と希望をつないだということが申せましょう。

## わかりきっていることですが……

猫の手でも借りたい師走—みんなが浮き足だっている大多忙のシーズンです。ただでさえ輪禍の多い昨今、お互いに交通事故には十分に気をつけましょう。そしてみんなでお正月を迎えましょう。

<年末年始の交通安全運動 12.11—1.20>

## 希望のモーターバイク

★立ち上る人びと

井手中睦生さん  
(鹿本郡植木町)

井手中さんは、若い頃、事故で左の腕を失くした身体障害者である。最初、熊本市内のクリーニング店に勤めたが、三年前植木町で独力で店を出すまでになった。むしろ、奥さんの献身的な協力を得てである。

昨年八月、その、文字通り「片腕」となって働いてくれた奥さんが、急性肝炎で入院、二ヶ月あと更に余病を併発して、井手中さんは、全く動きがとれなくなりました。

不自由な体ながら、自転車で精一杯やってみましたが、小さな子供三人をかかえ、クリーニング店を維持することはできなかつた。直ちに医療扶助と生活扶助の手がさしのべられたのであるが、奥さんの退院まで、井手中さんは片腕で頑張りつづけたのだった。

役場の係と、ケースワーカーとが、せめてモーターバイクなら能率も上がるだろうし、自立のきっかけになるだろうと話し合ったのは、そんな井手中さんを見つめていたときだった。

生業扶助いっばいを適用して、モーターバイクがおくられた。店の実績は、目に見えて上ってきた。奥さんも全快して、また協力を始めた。前途に明るい見通しが立った今年の十月、保護打ち切り。井手中さんは再び、懸命に仕事を始めたのである。